

自治ひろこ

1418号

第63回定期大会 特集号



全日本自治団体労働組合 兵庫県本部
〒650-0004 神戸市中央区中山手通3-4-8 大東ビル TEL078-392-0820 FAX 078-392-0920
E-mail:jhyogo@jichiro-hyogo.jp

2013. 10. 15

月2回(1日、15日)発行 定価10円
購読料は組合費に含まれる。
自治労兵庫県本部
書記長/森蔭 守・編集人/西岡 裕



大会には代議員、傍聴者をあわせ約300人が参加した

厳しいからこそ団結を

改憲阻止の運動強める

大野、隅田新副委員長を選出

第63回定期大会

県本部は、9月27、28日、第63回定期大会を神戸市舞子ビラで開催した。大会には、各単組の代議員、傍聴者など約300人が参加し、活発な議論を展開した。県本部が法人格取得するための規約整備(第4号議案)をはじめ、「2014年度運動方針(案)」を含め、6議案全てを賛成多数で可決した。大会の質疑では合計18人が発言し単組の取り組みなどを報告。新たな副委員長として、県職労の大野義政さん、豊岡病院労組から隅田龍さんを選出した。また、南但広域行政事務組合労働組合と、北播磨総合医療センター職員ユニオンの自治労加盟を承認した。

法人格取得へ規約改正

大会は、坪田真樹副委員長の司会で開会し、廣瀬美恵子(養父市職労)、大野義政(県職労)の両代議員を議長団に選出し議事を進めた。開会にあたって本多義弘委員長は、「厳しいときだからこそ、団結しよう」と述べた。来賓の近畿地連古川友則議長が、自治労の間を代表しあいさつ。続いて、働く仲間を代表し、連合兵庫辻芳治事務局長が激励のあいさつを行った。議事は、第5号議案「新規加盟組合の承認」を先議。

南但広域労組と北播磨ユニオンの自治労加盟を拍手で承認した。その後、一般経過報告、決算報告、会計監査報告を提案。質疑で6人の代議員から発言を受け、全体の拍手で報告事項を承認した。続いて、執行部から14年度運動方針(案)など、各議案を一括提案し1日目の議事を終えた。2日目の質疑で、12人から発言を受け、提案された全ての議案が可決された。

県本部組織内候補

山名そうご 神河町長選挙 11月17日



1959年1月、大河内町(現神河町)に生まれる(現54歳)。1977年4月、大河内町役場入職。1995年から自治労大河内町職書記長、1999年から執行委員長、2005年から神河町職執行委員長(初代)。この間、播磨ブロック副議長、県本部執行委員を歴任。

村井正信 西脇市議会議員選挙 10月27日



1949年3月、西脇市に生まれる(現64歳)。1971年4月、西脇市役所入職し総務課、税務課、市民課などで勤務。この間、自治労西脇市職員組合執行委員長、播磨ブロック副議長など歴任。2009年10月、西脇市議会議員に初当選。

県本部推せん候補

久元きぞう 神戸市長選挙 10月27日

伊賀 央 豊岡市議会議員選挙 10月27日

森上 祐治 南あわじ市議会議員選挙 10月27日

また役員改選では、大野さん、隅田さんを新副委員長に選出し、新体制を確立した。そして、「改憲を許さな

いまいち座

こんなことにならなければいいが...



吉田ノボ

しこう

妻が筋力トレーニングをはじめた。安く通えるジムを探し、専門的なアドバイスを受けるが、長期的なプランで頑張っている。「やっぱりプロは違うよ」「プロのいうことを素直に聞くべき」という言葉がよく出てくる。▼「プロは違うか」と適切な返事をしながら、原発事故の汚染水タンク問題のニュースを眺める。福島第一原発の事故発生当時は、専門家の解説に「非常事態」の認識はできても、内容は理解できなかった。でも、内容が理解できるようになる程度で、原子炉の図を見つめていた。▼経験のない事故の対応が困難なことは十分に理解できるが、汚染水漏れ事故は解説が簡単でわかり易く、「継ぎ目から漏れました」「傾斜地のタンクが傾いていて水位計が」。わかり易すぎてテレビを見ながら「大丈夫か?素人でもわかるぞ」とつぶやく。「作業員は三交代で必死に働いています」というレポーターの言葉に、理解できなくても被災地と現場に思いをはせ、関心を持ち続けようと思ふ。



本多義弘委員長

大会開会にあたり、執行部を代表してあいさつを行った。この1年間は、大きな取り組みや状況の変化があった。昨年10月には「兵庫自治研」を受け入れ、無事成功させることができた。組合員みなさんの努力で、県本部は全分科会にレポートを提出することができた。とりわけ神戸市職労のレポートは優秀賞に輝いた。

全国集会の喜びも束の間、12月の第46回衆議院選挙では、民主党が敗退。自公政権の復活を許してしまった。第2次安倍内閣発足後、退職金引き下げ、地公債削減の攻撃が強まっている。「デフレ脱却」「株価安定」など、経済再建への期待が高まり、7月の参議院選挙でも自民党の圧勝を許している。

働く者の分岐点となる大会

改憲勢力と抗する

この目標を達成するため自民党は、単独で衆参両院の3分の2を確保すること、そして護憲、脱原発、平和・人権環境に取り組む自治労の力を削ぐことをめざしている。今大会は、こうした状況

で開催される。自民党の改憲勢力に飲み込まれるの、か、連合に結集し、働く者を軸とした社会にするのかの分岐点になる重要な大会だと認識している。執行部方針に対して活発なご意見をいただき、たまたかう方針を決定してほしい。衆参の選挙では負けたが、年内には県内で各種首長・自治体選挙が行われる。県本部は神戸市長選挙では

昨年の自治研集會では、住民が私たちの仕事に期待を持っていてことが明らかになった。自信と誇りを持って前進するため、大会で議論を深めよう。